

**戦没** 者や戦没犠牲者の冥福を祈つた合同慰霊祭、8月24日に金田分館で行われ、およそ百人が献花した。



めぐりくる夏、消さない記憶、受け継ぐ願い。



**長崎**

での修学旅行で学んだ原爆について、井城小平和学習で6年生が発表。低学年も真剣に聞き入った。



**遺品**

を手に「兵士・庶民の戦争資料館」の武富悠海副館長が伊方小平和学習で講話。戦争の実相を伝えた。



特集 ● 祈り 63年目の夏【完】

**陶器** 製手榴弾に注目が集まった伊方小平和授業の戦争資料展。数々の遺品が、戦争当時を物語った。

### 【この夏を忘れない】

少年の翼で沖縄に行きました。犠牲者には、僕と年が変わらない人もいて「この時代に生まれていたら僕も死んでたのかな」と想像しました。みんな折った千羽鶴をささげて、犠牲者がどんな気持ちだったのかを思いながらお祈りしました。

8月6日は全校で原爆のビデオを見ました。広島や長崎は何もかも焼かれ、何もかも無くなっていました。何でこんな戦争をしたのか、罪のない人が死ななければならなかったのかを考えました。

僕たちは実際に戦争を知りません。だけど、体験した人の話を聞いたり、戦争のつめ跡を見ただけでもその悲惨さを感じます。平和な社会はみんなの願いです。そのためには争いをなくさなければいけません。僕はこの夏に学んだことを決して忘れません。



金田小学校6年 井手本 遼勢

**63** 回目の夏がめぐってきた8月6日、町内の全小中学校で一斉に「平和学習」が開かれました。映像、写真、そして語り部から、子どもたちは戦争の辛苦と平和の尊さを学びました。

戦後生まれが国民の7割を超え、若い世代にとっては他人事になりがちな戦争。先の大戦でさえ風化の一途をたどり、歴史教科書の「コマ」にすぎなくなる危険性をはらんでいます。一方で貴重な体験を聞くために残された「限られた時間」は少なくなっています。子どもたちが戦争を学ぶ上で、特に体験者の肉声に触れること

は、戦争への道を歩ませない重しになります。それを積み上げていくことが、平和への道へとつながっていきます。そのためにもわたしたちは、今しか聞くことのできない貴重な体験に、目を凝らし、耳を傾けなければなりません。63年前の敗戦。その時、紛れもなく日本は焦土と化し、国民の多くが絶望に陥りました。「もう」ではなく「たった63年前の出来事。確かにこのような現実が、この国にあったのです。そして戦後、日本人は戦争とは無縁の平和を享受してきました。だからこそ、奇跡的ともい

# 心と記憶に刻みゆく平和

あたりまえのようにある平和も、願い続けなければいつか、守れなくなるような気がします。せめて黙とうの時だけでもいい、心の中で戦争への警鐘を鳴らしてください。

える発展を遂げたのです。「平和」と「豊かさ」が同一であることがわかりました。またその間、世界のどこかで戦闘が途切れなかったことも事実でした。いま、平和を願わない人はいないでしょう。しかし、日ごろ無関心のままでは、いずれ平和も守れなくなります。戦争を知らない世代に問われているのは、体験を受け継ぐ一人ひとりの姿勢です。太平洋戦争では日本人だけで約310万人の犠牲者を出しました。明治以降、福智町の戦死者は1千人を超えます。日本の繁栄とわたしたちの命は、決して

宙に浮いているのではなく、63年の時を越え、失われた命の上に立っています。平和の重み、いのちの重み、それらを受け継いでくれた先人たちのことを忘れてはなりません。戦争を知らない世代が、戦争の貴重な記憶を心に刻み続ける限り、次代の道標となる「平和の轍」は、これからもつなげていきます。

【特集 祈り】資料提供 福田良民 / 沖縄県平和祈念資料館 / 知覧特攻平和会館 / 石井謙吾氏 硫黄島探訪 / 長崎県観光連盟 / 大和ミュージアム / 兵士・庶民の戦争資料館 願不同

